7月29日号　第2683号
2004年（平成16年）
（昭和24年5月10日　第三種郵便物認可）

海上保安新聞

発行所　財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5-3-1
電話 03-3542-3678〜9
FAX 03-3541-9085
E-mail：skishinbun@jcga.or.jp
（毎週木曜日発行）
購読料　月極610円　送料共

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1−14−14
TEL 03−3553−3161〜4
FAX 03−3551−4898

東南アジア3カ国に派遣

ファルコン機「おおたか」

海賊 海上テロ 対策の連携を強化

海上保安庁は7月26日、羽田航空基地所属のファルコン機「おおたか」をフィリピン、インドネシア、マレーシア3カ国に派遣した。6月17、18の両日に行われたアジア海上保安機関長官級会合で、全会一致で採択された「アジア海上セキュリティ・イニシアチブ2004」に基づき、アジア各国と海賊・海上テロ対策で相互協力と連携強化を行うため、初めて派遣した。

31日まで公海上で海賊行為を含む海上テロ活動を、「海賊・海上テロが発生した際、捜索や支援活動をスムーズにできるよう各国の空港で離着陸訓練などを行う。また、3カ国の海上保安機関と意見交換を行う。

さらに28日にインドネシア、30日にはマレーシアで同国の海上警察部局らの人が搭乗して、両国周辺海域を体験飛行し交流を図ることにしている。

「アジア海上セキュリティ・イニシアチブ2004」は、海賊対策分野で協力し合うことを確認した2000年の「アジア海賊対策プログラム」を継続的に推進することに加え、新たに海上テロ対策でも共通の認識を持つことを含めたアジア海上セキュリティ会議」を構築することで各国が合意。海上における不法行為の予防・鎮圧のための情報交換など、多国間の海上不法行為対策のための情報共有の実施などを取り決めており、今回のファルコン機派遣はその一環。

黒潮、大蛇行の可能性

監視強める海洋情報部

海上保安庁海洋情報部は7月23日、黒潮の蛇行が九州東方から四国南方を発達しながら東に移動しており、14年ぶりの大蛇行に発達する可能性が強まったと発表した。黒潮の大蛇行は、沿岸域の流れを変え、魚の乏しい太平洋側の海域で、漁獲量が減少するなど、漁業情報部は蛇行が東に移動し、その中心付近の水温に低下がみられ、反時計回りで渦状になっているところがかなり目立つ。

海洋情報部によると、同部は、遠州灘の冷水塊の存在などから今回の場合も大蛇行に発展する可能性が出てきたとみている。

過去の大蛇行は、四国・伊豆諸島を結ぶ海嶺（伊豆諸島を中心とする海底の高まり）の間で黒潮が大きく南方に張り出すと、遠州灘に難と冷水塊（約150〜200℃）が現れ、その状態が数カ月間継続した。

現象の変動について今後も監視を強めていく。

黒潮の蛇行現象は昨年末ごろ、種子島東方で発生した。

海洋情報部は、今回の蛇行現象の変動について今後も監視を強めていく。

海フェスタ 多彩な催し

工作船引き揚げ品も展示

7月19日の「海の日」を中心に、全国で多彩な海の催しが行われた。博多港では「海フェスタふくおか」が17日から25日まで開かれた。海上保安庁も各種の事業に積極的に参加。各部署は、体験航海や灯台などの施設公開、「青い羽根」募金や学生奨学活動などを展開した。

軽快に演奏する海上保安庁音楽隊

「人を　夢を　未来をつなごう　みなとから」をテーマに、「海フェスタふくおか〜海の祭典2004」が7月17日から25日まで、福岡市・博多港等一帯で開催された。

17日に博多ふ頭で、航路標識測定船「つしま」と帆船「日本丸」の記念入港歓迎セレモニーを中心に、オープニングの式典が開催された。17、18の両日には「つしま」と「日本丸」の一般公開が行われ、「つしま」には700人が来船した。

17日から25日の9日間、ウォーターフロントパーク（C放送会館）で、「海・船・港を知る」をテーマに、「海・船・港」に関する展示、子供向けの海洋教室、海上保安庁長官も出席した。

24日には博多湾で巡視船艇による海上保安庁の活動内容を紹介する展示、写真パネルや模型の紹介コーナーなどが設けられた。

「海の祭典」は昭和61年の北九州市を皮切りに、全国の主要港湾都市で開催されてきた。平成8年に制定された「海の日」（7月20日）が、昨年から7月の第3月曜日となったため内容をリニューアル、より地域に密着した「海フェスタ」となった。新しい海フェスタは、昨年の「海フェスタKOBE」に続き2回目。

イベント会場は、博多ふ頭（博多ふかい）、シーサイドもちの浜、海の中道などで、博多湾一帯を使って開催された。

秋篠宮ご夫妻に工作船関係の説明をする小林・福岡保安部長

「ちくぜん」（福岡）に、公募の200人が乗船した「海の体験航海」が行われた。「海フェスタ・小倉祭」（さいかち）の原作者・小倉陽一さんをゲストに招き、ミス同足賞も同展示会を見学。小林慎福岡保安部長らの説明を、熱心にお聞きになった。

21日には福岡市内の会議場で、記念式典・祝賀会が開催され、秋篠宮夫妻が臨席、石川裕海上保安庁長官も出席した。

24日には海上保安庁の活動内容、写真パネルや模型の紹介コーナーなどが設けられた。

特別展示として、七管本部から九州南西海域工作船事件の引き揚げ品を展示。同足賞も同展示会を見学。小林慎福岡保安部長らの説明を、熱心にお聞きになった。

21日には福岡市内の会議場で、記念式典・祝賀会が開催され、秋篠宮夫妻が臨席、石川裕海上保安庁長官も出席した。

24日には博多湾で巡視船艇による海上保安庁の活動内容を紹介する展示、写真パネルや模型の紹介コーナーなどが設けられた。

石川長官 管区を初視察

五島保安署で訓示する石川長官

7月1日に就任した石川裕三海上保安庁長官の各管区視察が始まった。21、22両日の七管区をスタートに、今後も関係機関の合同訓練などを視察する計画という。

初視察の石川長官は21日午後、横山鎮護救艇と公海上で合同訓練を視察する。

「ふくえ」は午年就航した海上保安庁最大（3355トン）の巡視船で、30ノット以上の高速で航行できる。今後も関係機関の合同訓練などを視察する。

初視察の石川長官は21日、前日に遠隔操作式の20ミリ機銃と高圧放水銃を装備した新型船、長官は船上から不審船対応訓練などを視察した。

22日は午前9時すぎに、「ふくえ」は午年就航した海上保安庁最大（3355トン）の巡視船で、30ノット以上の高速で航行できる。今後も関係機関の合同訓練などを視察する。

初視察の石川長官は21日、前日に遠隔操作式の20ミリ機銃と高圧放水銃を装備した新型船、長官は船上から不審船対応訓練などを視察した。

22日は午前9時すぎに、「ふくえ」は午年就航した海上保安庁最大（3355トン）の巡視船で、30ノット以上の高速で航行できる。今後も関係機関の合同訓練などを視察する。

衆議院特別委が北方海域を視察

「かむい」船橋から視察する委員

衆議院特別委員会（金田誠一委員長）は、「北方領土・国後島・択捉島・歯舞諸島・色丹島」の現状視察のため、「かむい」で、実質調査の一環として、「かむい」に乗船した。

「かむい」は、「北方領土・国後島・択捉島・歯舞諸島」の現状視察のため